

事業拡大支援コースNo.2

事業名 市川地域協働のまちづくり推進事業

団体名

市川地域ふれあい大運動会 準備委員会

活動報告の概要

市川地域には、初め多賀と轟木の2つの小学校区があり、戦後に桔梗野、多賀台という新たな小学校区が誕生し、4小学校区で市川という1つの中学校区が形成されています。これまでは、各小学校区の地域活動は盛んではありましたが、市川地域全体としての活動には乏しいきらいがありました。そこで、こうした課題を克服し、地域全体の活性化を図るために催されたのが、市川地域ふれあい大運動会でありました。この運動会は、地域住民がふれあうことを基調にして開催されたもので、過去7回と回数を重ね、今では地域の一大イベントとして定着し、地域が活性化するためには地域全体での連携が必要であるとの認識を共有できるまでになりました。

そこで、地域の将来を模索・リードするような地域づくりの新たな枠組みをつくり、地域を元気にし、協働のまちづくりの基盤形成を図るために本事業が実施されたものであります。

事業はまず、地域の代表者によって市川地域連合町内会設立を組織し、地域づくりの方向性について協議を重ねました。その結果、地域連携の基礎となる市川地域連合町内会を設立（4連合町内会34全町内会）するだけでなく、自己裁量、自己責任、地域協働の三原則により、地域のあり方を継続して模索・リードしていくために地域

内諸組織諸団体の地域連合町内会への参画（28団体）を得ることが出来ました。

今後の地域づくりの方向性としては、地域福祉の推進、安全安心の推進、地域文化の高揚、健全育成の推進といった4つの活動テーマを採択しました。また、中期的展望として地域内の諸組織諸団体の地域連携、長期的展望としては市川地域振興協議会の設立を掲げています。住民に行ったアンケート調査には多様な意見が寄せられ、魅力ある地域とは、地域環境としてのハード、地域に住む住民の助け合いといったソフト、その両面が必要であることが確認できました。

本事業の成果としては、地域の指導者や住民の意識改革（待ち受けから協働へ）、新たな芽吹き（社会福祉協議会設立・体育振興会連携）、地域コミュニティの高揚といった効果があげられます。今後は、住民参加を得るための具体的なプログラムづくりが必要となっており、地域連合町内会への期待が大きい中で、次代につながる地域づくりの新たな枠組みを形成できたことは大きな一歩と言えます。